

## 学術会議問題 6人再推薦、排除されず 内閣府事務局長が答弁

内閣府の福井仁史・日本学術会議事務局長は11日の衆院内閣委員会で、日本学術会議の会員任命拒否問題をめぐり、学術会議が任命を拒否された6人を再び推薦することについて「排除されていない」と述べました。立憲民主党の今井雅人議員への答弁。

加藤勝信官房長官は、安全保障政策などをめぐる政府方針への反対運動を先導する事態を懸念して任命を見送る判断をしたとの報道について、「政府に対する発言で任命について考慮したということはない」と答弁。立民の柚木道義議員が、政府は学者らに対する思想調査や身辺調査をしているのかとただすと、「どういったポイントで人事をしているのかに直結する話で、具体的に何をどう調査しているのかについては控える」と答え、調査を否定しませんでした。

一方、立民の大西健介議員は、内閣府の日本学術会議事務局長が2018年に取りまとめた見解の中で「任命すべき会員の数を上回る候補者の推薦を求め、その中から任命するということも否定されない」としている点について質問。「(任命すべき会員)105人の倍の210人の推薦を求めることもできるのか」と問うと、福井事務局長は「文理上は可能だ」と答え、政府が定員を大幅に超える推薦名簿を要求することで、学術会議の会員選考過程に関与する可能性も否定しませんでした。